

議決権行使レポート

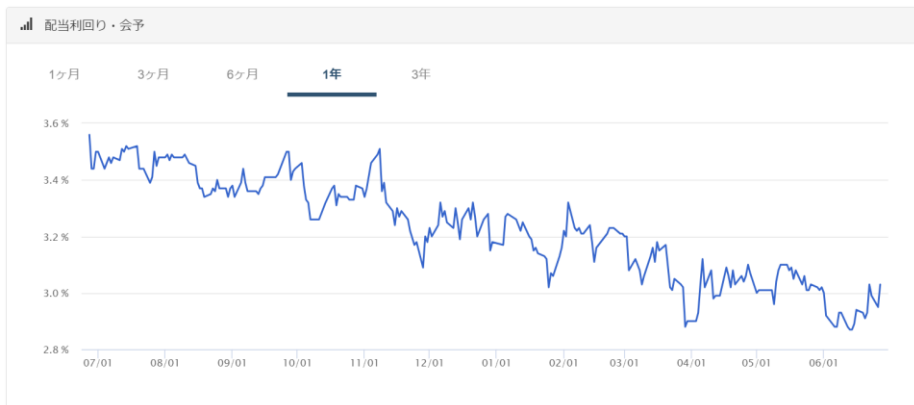
証券コード 6678

会社名:テクノメディカ株市会社

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金処分の件			
實吉 政知 氏	○		
武田 真人 氏	○		
津川 和人 氏	○		
中野 靖 氏	○		
松尾 晋一 氏	○		
安酸 庸祐 氏	○		
尾関 純 氏		○	
第2号議案 取締役4名選任の件			
實吉 政知 氏		○	
武田 真人 氏	○		
津川 和人 氏	○		
中野 靖 氏	○		
第3号議案 監査等委員である取締役1名選任の件			
尾関 純 氏	○		
第4号議案 剰余金の処分の件 (株主提案)		○	

上記の推奨をした理由

第一号議案について



上記の表が配当利回り推移である。

招待通知には一株当たり 60 円とすると書かれている。また、「各事業年度における配当の回数につきましては、期末配当のみ 1 回を基本としてしておりますが、業績の状況に応じて中間配当制度を活用し、株主の皆様への適切な利益還元を図りたいと考えております。」とあるため、業績次第で中間配当も考えられる以上、株主還元の不十分性は確認できず、賛成でよしと判断した。

第 2 号議案について

この議案において實吉政知氏のみ反対と判断した理由として、2021 年の総会を境に反対票の増加が著しいことが目に留まったためである。一時的に反対勢力が膨れ上がることは他氏でも見られたが、同氏のみ沈静化していない。同社は 2021 年に採血管準備装置の大幅な売り上げ減少がみられ、特に海外輸出がひどく減少した経験があり、同時に配当性向の指数を大きく落とした。その後は回復の一途をたどっているが、昨今配当利回りが徐々に低下していることが観測される以上、少なくとも同氏への反対票は数を保ち、最悪の場合反対決議がなされるだろう。

第 3 号議案について

尾関氏は 2017 年より取締役を継続しているにもかかわらず高い独立性を保った監査委員であるため、継続して信任するに値する人物であると判断できた。

第 4 号議案について

当議案はテクノメディカ社が明確に反対を掲げており、『当社は、「2030 長期ビジョン」の中で「中長期的には、配当性向 30%~40% の目安に加え、総還元性向 50% を実現することを目指す」と説明してきており、今後も安定かつ高配当を維持していく予定であります。』『また、過去数年でも 2016 年度の 43 円から、45 円、47 円、49 円、51 円、60 円と増額して来ております。この間、営業利益について増減はありますが、10 億円以上の利益を確保しており、安定的に高配当を維持していくことが重要と考えております。更に当社は、適宜、自己株式の取得も実施して来ております。』と記載している。同社は 2030 年までを見据えた長期的なプランと株主還元を同時に成立させるための適正配当を 60 円と考えており、『高配当を維持していく予定』であると述べているため短絡的な配当上昇よりも大事なことがあり、長期プラン達成の信頼性をリーマンショックや東日本大震災、コロナショックなどを引用して説明している。同社の商品は医療現場においてかなり有効な機器が多く、グローバル化の時代の中で発展途上国での需要拡大も考えられるうえ、医療危機の際にも大きな役割を果たす。社会的に重要な役割を担う世界的、東証プライム上場企業として存続し続けることに大きな意味があるため同社の意見が短絡的な利益に目を眩ました株主によって取り消されるとは考えにくいと、否決されるとした。

参考文献

https://posto-public-production.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/financial_statements/2221800/2021%E5%B9%B4%E6%9C%88%E6%9C%9F%20%E6%B1%BA%E7%AE%97%E8%AA%AC%E6%98%8E%E4%BC%9A%E8%B3%87%E6%96%99.pdf

(2021年3月期決算説明会資料)

<https://daiwair.webcdn.stream.ne.jp/www11/daiwair/qlviewer/pdf/2205266678x5hbbvjm.pdf>

(2022年3月期決算説明会資料)

<https://www.buffett-code.com/company/6678/governance>

<https://www.nikkei.com/nkd/disclosure/tdnr/20230606597857/>

(2023年株主総会招集通知)